

**第5次八戸市総合計画後期推進計画策定委員会**  
**第4回「まちの魅力創造プロジェクト部会」 議事概要**

日 時：平成22年10月1日（金）13:00～14:05

場 所：八戸市公会堂文化ホール2階 第2会議室

出席者：委員5名（類家伸一部会長、町田直子副部会長、類家徳昌委員、泉彩菜委員、中村萬之助委員）

事務局：政策推進課（清水主査、葛西主査）

庁内検討ワーキングチーム関係13課（まちづくり文化推進室、八戸ポータルミュージアム開設準備室、商工政策課、スポーツ健康課、環境政策課、道路建設課、道路維持課、建築住宅課、都市政策課、公園緑地課、運輸管理課、社会教育課、是川縄文館開館準備室）

要 旨：第5次八戸市総合計画後期推進計画の戦略プロジェクト最終案について、原案からの変更点等を確認しながら、その内容について検討した。

検討の結果、最終案について了解することとした。

内 容：

1 開会

2 部会長あいさつ

3 報告案件

①後期推進計画（原案）の修正状況について（部会資料7）

②八戸市都市研究検討会からの提案について（部会資料8）

4 審議案件

①パブリックコメント等への対応について（部会資料9）

②付帯意見について（部会資料10）

・事務局から一通り資料を説明した後、後期推進計画最終案の内容を検討した。

～以下、意見交換内容～

- ・リサイクルに関するシンクタンクの提案については、既に戦略プロジェクトの中に組み込まれているということになるだろう。スポーツに関する提案についてもスポーツ振興協議会事業に反映されているようだ。
- ・シンクタンクが中心市街地の空き店舗対策が重要と位置づけたのはそのとおりと思う。だが、空き店舗解消のための具体的な提案も欲しかった。商業主のまちづくりへの参画について、一部の商業主は参加しているが、全体としてはまだまだ数が少ない。それぞれの事業で精一杯で、まちづくりに参加する余裕がないのが実態。情報提供など

でまちづくりに向けた機運を高めるという意味ではその通りだと思います。

→シンクタンクからの提案をさらに掘り下げて議論する機会は予定していない。戦略プロジェクトに掲載された事業がうまく進められればよいかと思う。

→空き店舗・空き床解消事業を実施していて、現在2次募集中。問い合わせは20数件あるが、市で定めた条件に合うものはなかなかない。集客力を求めているので県外テナントがターゲットとなっている。新規で始めたばかりなので、今後様子を見たい。また、まちづくり八戸のマッチング事業により少しずつ空き店舗は埋まっている。

- ・重要かつ急務という認識は一致だが、今後、シンクタンクを交えた新組織やまちづくり八戸にシンクタンクを加えるなどして、踏み込んだ検討をすることはできないか？  
→シンクタンクの3番目のテーマが学生による中心市街地の活性化ということで、10月から研究が始まる。その中で議論されるかと思われる。

- ・付帯意見は各部会から必ず出さなければならないものか？  
→必ず出さなければならないわけではない。
- ・付帯意見というわけではないが、市民は、中心市街地とはっちに対し大きな関心を寄せている。だが、その中身となると、はっちを拠点として中心街がどのように良くなるのかが分からない市民も多いようだ。もっと周知が必要ではないか？
- ・はっちは来年2月に完成するので、この付帯意見として掲載しても間に合わない。入れなくてもよいのではないか？
- ・先ほどのシンクタンクの3番目のテーマの件もある。
- ・市民への周知を何年間か継続的に実施するというのであれば、付帯意見になりうるかもしれない。
- ・付帯意見としては、なくてもいいか。
- ・なくてもいい。
- ・付帯意見はなしとしたい。

- ・その決定の前に、付帯意見とすべきか分からないが、各部会で議論し、並列で記載している戦略プロジェクトについて、例えば中心市街地については、産業や雇用が前進しないと活性化しないというように、各事業には関連性があり、力の入れ具合が違ってくると思う。都市経営の観点で言えば、優先順位やタイミングが重要なので、戦略プロジェクトについても優先順位を付けるべきと思う。

→各部会の枠を超えた話となるので、個別の部会よりは策定委員会の方で議論するのが適当かもしれない。その場合に委員会の付帯意見のようになるのかどうか調べるので少し時間をいただきたい。

- ・以前の部会で中心街の三車線一方通行の対面通行化の際に駐車場について議論があったが、その検討について残した方がよいかと思う。  
→中心街の駐車場は交通施策とも関連があり、民間への補填という問題も発生するの

で、無料化については、すぐには結論が出ないと思われる。だが、おんでカードの発行により、駐車場経営者の連携が始まり、利便性向上について意見交換が少しずつ行われてきている。

- 市でも産業連関表を作成したということだが、戦略プロジェクト事業がどこに影響を与えるか検討してはどうか？また、シンクタンクが作成した産業連関表を各委員に配付することはできないか？  
→それぞれの戦略プロジェクトごとの影響については、各産業に分解すれば出すことは可能かもしれないが、どのように活用するかまでは、今は承知していない。産業連関表の配付の可否については、確認させていただきたい。
- 全市的な優先順位については先ほどのとおりだが、まちの魅力創造プロジェクトの中で優先順位を考えた場合、はっちが大きな柱だと思う。誘客が全市に拡大すれば、街が潤い、空き店舗も解消し、投資が進む、というように民間も動き出す。はっちの成功が大きな鍵を握っている。  
→戦略プロジェクトは4つのプロジェクト群に200弱程度の事業があり、選択と集中という観点からは薄いというところもあるが、当市の地域特性を考えると産業が様々あり、市民の安全安心に力を入れるということもあるので、戦略プロジェクトとして優先順位を付けにくいところがある。だが、毎年度の予算編成においては、情勢に応じ各事業に配分している。
- 普段から優先順位をつけているということであれば、了解した。